

こころ明るくたゆまぬ努力

令和2年12月18日(金) 第13号

三者面談、ありがとうございました。持ち寄り資源回収へのご協力、ありがとうございました。

◆校区の方からうれしいお電話をいただきました

先日、小学生のお子さんをもつお母さんからお電話をいただきました。お子さんが登校中、学校まで600mほど手前のところで腹痛を訴え歩けなくなってしまった時、中学生のお姉さんと先生が助けてくれたとおっしゃるのです。中学生のお姉さんが走って正門にいる先生に事態を告げ、先生と戻ってきて、先生がわが子をおぶって学校へ連れて行ってくれた、とのこと。お母さんは、「小中学生が同じ通学路を歩いている前芝ならではの事と思います。いい学校ですね。中学生のお姉さんは全速力で走ってくれたと聞きました。その後、また戻ってくれたそうで、本当にありがとうございました。おぶってくれた先生にもお礼を伝えてください」とのことでした。

お腹が痛くて一歩も動けなくなった、でも学校まではまだまだ距離がある、そのようなつらい気持ちを汲み取り、行動に移せた生徒の姿を誇りに思いました。これは、孔子の教えから端を発し、昔から日本人の美德とされてきた「恕の精神」（相手の身になって思い、語り、行動すること）です。コロナ禍で私たちが最も大切としたい心のもち様です。終業式で、このエピソードを紹介しながら「恕の精神」について話をしたいと思っています。

◆学校薬剤師の伊藤さんから換気の方法を教えてくださいました

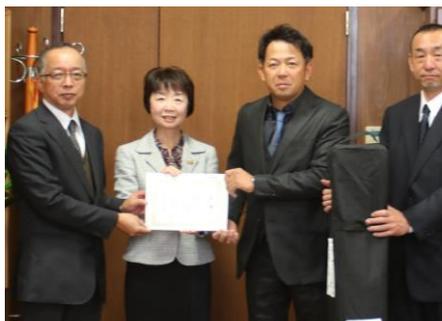
12月7日に環境衛生検査で教室の温度・湿度・照度等の検査のために学校薬剤師の伊藤さんが来校しました。検査結果に特に問題はありませんでした。丁度よい機会なので、専門家の立場から、教室の換気についてのアドバイスをいただきました。

教室はエアコンで暖房し、温まったところで換気のため窓を開ける。窓は運動場側と廊下側の対角線上の2か所で、10～20センチずつでよいとのことでした。常時このようにしておけば、空気中にコロナウイルスが漂っていても感染リスクを低下できるそうです。

現在は多めに窓を開けて換気をしています。寒さが厳しくなってきた時はこのアドバイスに従って授業中の換気を行っていきます。防寒のためのインナーを工夫していただくと助かります。



◆前芝中学校卒業生見目昌彦氏からご寄付をいただきました



本校卒業生のK's電設(株)代表取締役 見目昌彦さんから、「お世話になった母校に何か恩返しをしたい。前芝学校で使ってもらえるものを寄付したい」とのお話をいただきました。ご厚意をありがたく頂戴し、小学校と話し合い、運動会で使用する音響設備一式、朝礼台、テントをいただくことにしました。写真の四角い紙はその目録です。来年度の運動会でお披露目させていただきます。見目さんのご厚意に心から感謝し、大切に使用させていただきます。